

令和4年度終業式 講話 ■令和5年3月24日

No.36 「ことば 5」

おはようございます。校長先生の声、みなさんの心に届いていますか？

校庭の桜の花が咲いてきましたね。春がやってきました。この1年間いかがでしたか？今日も最後まで聞き合って、学び合ってしめくくりましょう。

さて、先週の「口をつかってどんな音が出せますか」というお題ですが、すこし難しかったでしょうか？

世界には200か国ほどあり、7000もの言葉あるのでしたね。その中には、日本語に慣れている私たちには想像もできないような音があります。イタリア語の巻き舌もそうですが、フランス語のラ行も変わっていましたね。フランス語はまだ変わったおとがありまして、いまからその音をだすので、どうやって出しているか、想像してみてください。

これはフランス語の[y]の発音でイの口でウと言います。また、[ø]の発音は、口はオでエと発音します。なんせ母音があいうえおの5音しかない日本語にくらべて、フランス語は19音もあるので複雑なはずです。

さて、世界7000の言語はもっと変わっているものもあります。アフリカのナミビア、ボツアナという国で話されているコイサン語には、日本では、あまり行儀がよくないとされている、あの音がCやXを発音するときに使われます。なんだと思いますか？

そう、舌打ち音です。上品ではありませんが、言語の紹介としてやってみますね。4月からコイサン語の子どもが転入してきても、みなさん温かく迎え入れてくださいね。

それから、これもあまり上品ではないのですが、口笛を音としてつかう言葉もあります。トルコのクシュキヨイというところに伝わる「鳥言葉」です。少し動画で確認してみましょう。

では、今年度最後の質問をします。ここまでたくさんの言葉を見てきましたが、なぜこんなにたくさんの言葉があるのでしょうか。おそらく、北京原人がつかっていた言葉が最初だとして、そのときは世界に言葉は1つだけだったはずです。だから、だれとでも話せてとても便利だったはずです。なのに、なぜ、日本語、英語、フランス語など7000もの言語が生まれたのでしょうか。周りの人と少し相談してみてください。

伝説としては、バベルの塔の話が有名ですね。これがその塔なんですが、工事が途中でとまります。なぜでしょう？

昔、人はみんな1つの言葉を使っていました。そして話し合いながら、協力してバベルの塔という大きな塔をつくりはじめました。それを見ていた神様が、人間のくせに、こんな大きな塔をつくるのは生意気だ！なるほど、人間は話し合うことでいろんな知恵がでているのだな、じゃあ明日から話し合いができないように、みんなバラバラのことばにしてやると、魔法をかけたそうなんです。すると翌日から、ある者は英語、ある者はフランス語しかしゃべられなくなって、協力して塔をつくることができなくなったそうなんです。これはあくまでも伝説で、実際は少し違います。

今日は卵とフライパンを持ってきました。今から目玉焼きをつくります。あっという間にできました。さあ、みなさんはどうやって食べますか？おしょうゆ？ソース？塩コショウ…たくさんでましたね。どれが一番とかではなく、それぞれがその人にとって1番だと思います。言葉も同じで、世界には熱い国もあれば寒い国もあり、雨の多い国、少ない国、山だらけの国、海に囲まれた島国、いろんなところで、いろんな人が住んでいます。当然、そこに住む人の好み、大切にしたいものはバラバラです。こだわりたいものもバラバラです。北京原人は助けて、危ないぞ、ぐらいしかなかつたのが、お肉が好きか魚が好きか、それとも果物が好きなのか、果物の何が好き？などなど長い時

間をかけて、それぞれの好み、こだわりで言葉がわかれていったと考えられています。

バベルの塔のように、言葉はもともとは、ほかの人と協力して生きていく、何かをなしとげていくためにつくられたのは間違いないかもしれません。元はと言えば、北京原人も、友だちの命を守る、食料を得るために言葉を使っていました。

こう考えると、自分が考えたこと、思ったことを言うためだけに言葉はあるのではなく、誰かに届けたいものがある、誰かとつながりたいから言葉があるのです。

今年度の授業中はどうだったでしょうか。自分が言いたいから言っていること、これをおしゃべり、私語といいますが、そんなことばかりになつていませんでしたか？

だれかに思いを届けたい、つながりたいと思って、言葉をつくってきましたか？4月からはぜひ、そういう言葉がたくさんある授業をつくっていきましょう。

それでは、これで今年度のお話は終わりです。
1年間、最後までよく聞くことができましたね、ありがとうございました。